

## 2015 年度第 5 回執行理事会議事録

期 日：2015 年 11 月 28 日（土）13:00-19:30

場 所：地質学会事務局

出席者：井龍会長 山本副会長 渡部副会長 齋藤常務理事 緒方 ウォリス 坂口 竹  
内 中澤 保柳 星 松田 山路

（事務局）橋辺

欠席者（委任状提出あり）：海野 杉田 平田 廣木

\* 定足数（12，委任状含む）に対し，出席者 13 名，委任状 4 名，合計 17 名の出席。

\* 前回議事録の承認

### I 審議事項

1. 名誉会員推薦委員会（委員長：山本副会長）階層別委員および理事会推薦委員候補者の選定し，

5 日の理事会に諮り決定する。

階層別委員 4 名の選出

- ・ 官公庁：田中裕一郎（産総研），小中高教員：会田信行（秀明大学校教師部）会社：足立勝治（アジア航測），大学：鈴木和博（名古屋大名誉教授）
- ・ 理事会推薦委員 1 名：5 日の理事会で決定，候補者
- ・ 職責委員（各支部長）7 名

竹下 徹，土谷信高，有馬 眞，原山 智，宮田隆夫，榊原正幸，佐野弘好

2. 各賞選考委員会の諮問委員会，各賞選考検討委員会委員（10 名程度）の推薦

\* 委員の数としては充足，バランスも整っているのので，特に執行理事会として委員を推薦することはしない。

指定委員 12 名

前・現会長：石渡明 井龍康文

過去 3 年間の学会賞受賞者：（井龍康文），乙藤洋一郎 川幡穂高，齋藤文紀 脇田浩  
二

地質学雑誌前・現編集委員長：小嶋 智 山路 敦

IAR 前・現編集委員長：井龍康文・前川寛和・伊藤 慎 海野 進

3. 選挙立会人 2 名の選出：執行理事会で決定

巖谷敏光（産総研），村上瑞季（早稲田大）

4. 2016 年度事業計画案について

会長が骨子案を作成し，12 月理事会で紹介する。

5. 県の石の選定原案について（井龍）

県の石（岩石，鉱物，化石）について支部案と一次案を慎重に検討し，執行理事会案を作成した。これを川端委員会に提示する。

6. 投稿出版編集規則の改正（オーサーシップの適切性に関して）案を検討中（山路）

取りあえず、下記の「投稿の適切性」についてのみ 12 月理事会に方針を示す。条文化はその後、規則改正は 4 月理事会の見込み。

#### 【投稿の適切性】

1. 本誌への投稿原稿で著者として記載されるためには、次の(1)～(3)の要件すべて満たすことを要する。
  - (1) 当該論文の研究において企画・構想、または調査・実験・観測に本質的な貢献をしている、または理論的解釈やモデル構築などで実質的貢献をしていること。
  - (2) 論文の草稿を執筆、または論文の重要箇所に見解を表明して論文の完成に寄与していること。
  - (3) 内容および結論を著者として承認していること。

## II 報告事項

### 1. 全体的報告

#### 1) 大韓地質学会の年会（日程：10/28-30，濟州島）出席報告(井龍)

大韓地質学会側から、2024 年の International Geological Congress (IGC)開催を韓国に誘致したいという話があった。ただし韓国の他に立候補国が多数ある。巡検を 40 コース程度企画、そのうち 10 程度を日本で開催する方向で本学会にサポートしてほしいという話があった。なお、大韓地質学会は 2017 年に創立 70 周年を迎える。

#### 2) 防災学術連携体への参画を決め、同準備委員会に入会を申し込んだ。来年 1/9 に開催の創設シンポジウムに活動報告をする予定。なお、連携体の委員として、地質災害委員長の斎藤眞理事ならびに事務局から堀内昭子を委員として登録した。

#### 3) 地層処分候補地選定報告書説明会の開催は 12 月中に開催できるように打診し、日程を調整する。

### 2. 運営財政部会：総務委員会（緒方）

<共催・後援依頼，他団体の募集等>

#### 1) 三浦半島活断層調査会（会長茅野教幸）より学会リーフレットを利用した城ヶ島観測会（11/15）の名義後援依頼を承諾した。終了後の報告も受けた。

#### 2) アイソトープ協会より、第 53 回アイソトープ・放射線研究発表会（2016/7 予定）の共催の申し入れがあり、これを承諾し運営委委員として小宮剛会員を推薦した。

#### 3) Techno Ocean2016（2016/10/6-8）の協賛依頼が同実行委員会（委員長大塚耕司大阪府立大教授）よりあり、これを承諾した。

#### 4) 藤原賞（藤原科学財団）の募集、対象は自然科学で所属組織・機関の長の推薦が必要。応募締め切りは 1/31，学会の締め切りは 1/7 とする。→geo-flash, HP, News に掲載

#### 5) ジオパーク新潟国際フォーラム（2016/7/27-29：新潟市，実行委員長 米田 徹：糸魚川ジオパーク）の後援名義使用申請があり、これを承諾した。

#### 6) 第 25 回環境地質シンポジウム（主催 医療地質-地質汚染-社会地質学会，11/27-28，日大）の共催申請があり、これを承諾した。共催団体として地質学会から CPD の発行の

要請あり.

- 7) 国際シンポジウム「先カンブリア時代の世界 2 : 現在/過去/未来の地球記録 : 地質・海洋・生物が記憶する 4 6 億年間」(PW 組織委員会代表 清川昌一, 2017 年 3 月) の共催依頼があった.
- 8) 経済調査会より, 地質調査要領説明会(地質学会後援)実施報告があった. 全国各地 8 か所の開催により 1,178 名の参加を得た.
- 9) 第 4 回アジア太平洋ジオパークネットワーク山陰海岸シンポジウム(学会後援)の組織委員会(尾池委員長)より出席の礼状が届いた.

<その他>

- 1) 千葉大学環境リモートセンシング研究センター創立 20 周年記念式典への招待があり, 式典に渡部副会長が出席した.
- 2) 埼玉県職員採用公募案内, 募集期間 11/9-12/4, 土壌・地下水・地盤分野 1 名 → geo-flash, HP, News に掲載
- 3) 防災科学技術研究所理事長の交代挨拶 : 新理事長 林春男 (旧 : 岡田義光)
- 4) 東大大気海洋研究所共同利用並びに学際連携研究の公募案内(締切 11/30) → geo-flash, HP に掲載
- 5) 学術会議より協力学術研究団体の実態調査の依頼があった. → アンケート回答期限 1/31
- 6) 大学評価・学位授与機構より「学協会における, 大学・大学院教育の質保証の取り組み状況に関する調査について」が寄せられた. 回答案は緒方理事が作成し, 執行理事会で確認の後提出することとした → アンケート回答期限は 12/21

<会員>

- 1) 今月の入会者 (3 名)  
正会員 (4 名) : 富田一夫, 石澤堯士, 山田直樹, 朝日博史  
正(学部割)会員 (1 名) : 太田凌嘉
- 2) 今月の逝去者 (3 名)  
名誉 (1 名) : 勝井義雄 (10/20)  
正 (2 名) : 岸 清 (8/20), 尾田太良 (10/25)
- 3) 2015 年 10 月末日会員数  
賛助 : 28, 名誉 : 59, 正会員 : 3787 (正会員 : 3578, 院割会員 : 192, 学部割会員 : 17)  
合計 3874 (昨年比 -43)
- 4) 新 50 年会員の阿部正宏・大島 治会員から礼状が届いた.

<会計>

- ・長野大会の収支について. 80 万円程度の黒字見込み.
- ・来年度の年会業務委託について, 2 社に見積もり要請中.

<その他>

- ・共催・協賛および後援等の申請についての規則案を検討中, 次期に確定予定.
3. 広報部会 : 広報委員会 (坂口・松田)
    - 1) 第 7 回惑星地球フォトコンテストについて

- ・ポスターを各所に配付した
- ・ジオルジュ後期号は近日中に出版予定.

#### 4. 学術研究部会 (ウォリス・竹内・中澤)

##### (1) 行事委員会 (竹内)

1. 学術大会に関する緊急時対応指針 (2014 年 7 月版) を改訂する. 行事委員会で詳細について検討を進める.
2. ハイライトについてのアンケート. 今年の巡検案内書を地質雑通常号に収録したことも含め, ネットアンケートで全会員から意見を聞く.
3. 総会時講演会. 専門部会に打診して講演者を決める.

##### (2) 国際交流委員会 (ウォリス)

- ・「Geology of Japan」の編集がほぼ終了. 2016 年前半に出版予定.
- ・2017 年の JpGU 大会は AGU と完全共催の予定. 地質学会もセッション提案等について検討する.

#### 5. 編集出版部会 (山路・海野・保柳)

##### (1) 地質学雑誌編集委員会 (山路編集委員長)

###### 1) 編集状況報告 (11 月 25 日現在)

2015 年投稿論文 総数 67 編 [総説 4 (和文 2・英文 2)・論説 38 (和文 36, 英文 2)・報告 10 (和文 8, 英文 2)・ノート 2 (和文 2)・口絵 5 (和文 4・英文 1)・巡検案内 8] (昨年比 +4)

査読中 : 27 受理済み : 6

- ・121 巻 11 月号 : 論説 2, ノート 1, 37 ページ, 11/20 校了, 11/30 発送予定
- ・121 巻 12 月号 : 論説 2 or 3, 口絵 1 校正中
- ・新規特集号「水蒸気噴火研究の展開」(世話人 : 長谷川健・及川輝樹・竹下欣宏・上澤真平) (約 60p 予定) の申込あり企画を受付けた. まもなく各原稿投稿開始予定.

- 2) 東京・桜上水大会の巡検案内書について, 他者出版物との一部内容重複に関する件  
東京大会で実施予定の伊豆コースについては, 来年 7 月に当該地域の地質ガイドブック (単行本) を出版社より出版する予定がある. 巡検案内書にはその内容の一部をもとにしたダイジェスト版を投稿したい旨, 案内書編集委員会を通じて著者から問い合わせがあった. これについて編集委員会は, 著作権や二重投稿について, 編集委員会および執行理事会で意見交換をし, 単行本を一次掲載物, 案内書を二次掲載物と認め, 条件付きで案内書への投稿を認める旨回答した.

##### (2) アイランドアーク編集委員会 (海野)

###### 1) 編集状況

Vol. 24 Issue4 (2015 年 12 月) : 一般原稿 3 編 (計 68 ページ) 発行予定.

###### 2) オンライン投稿の状況

過去半年 (2015. 6. 1~2015. 11. 27) の投稿数 26 件. うち新規投稿 20 件.

###### 3) その他

- Island Arc の隔月刊について：Vol 25-1（2016年1月）より隔月発行が開始される。それ対応した契約内容の変更については、現在ワイリー側で書面を準備中。また隔月刊に関する会員への案内を News 誌 12月号に掲載予定。
- 掲載論文の日本語抄録の HP 掲載：日本語抄録は、これまで学会 HP および New 誌上にも掲載していたが、Vol 25-1（2016年1月）より Island Arc HP（ワイリーのサイト）上でも掲載されることとなった。
- Island Arc HP に JpGU のロゴを掲載する件：HP 内の「Society information（協賛学会のロゴと各 HP へのリンクを掲載）」内に、ロゴを掲載したいとの申し入れをワイリーに行ったが、断られた。
- JST からのデータベース（DB）への収録依頼：JST より学会 HP に掲載している日本語抄録を JST DB である Jdream, JGlobal に収録させて欲しい旨問い合わせがあった。Jdream ではデータベース化した情報を販売しており、ワイリーとしては商業使用するには現在の JST とワイリーとのライセンス契約内容では不十分であり提供は不可との返信があった。学会からも JST にその旨回答した。
- Wiley の Technical Style Sheet について：校正ミスの多い一般的な学術誌以外の引用文献の書き方を整理し、簡素化する方向で検討中。

### (3) 企画出版委員会（保柳）

- 1) 長瀬たんけんマップ（高木ほか編）について、査読が完了したので、最終的な出版承認を 12/5 の理事会でうける。

### 6. 社会貢献部会（平田・杉田・廣木）

- 1) 秋の地質調査研修は 6 名の参加者を得て実施し、無事終了した。
- 2) 地質地盤情報活用促進に関する法整備推進協議会“第 11 回～13 回地質地盤情報活用検討委員会”の議事録が届けられた。同協議会は今年度で終了し、来年度から「地質地盤情報利活用活性化研究会」として新たに発足の予定とのこと。11/25 付け[1]で推進協議会 佃会長名により上記研究会の活動方針案等について連絡があった。

### 7. ジオパーク支援委員会（平田）

- 1) 11月17日 ユネスコ総会にて世界ジオパークがユネスコ正式事業に承認された。
- 2) 地震火山子どもサマースクールについて
  - 2015 年度第 16 回南アルプス会計報告
    - 収入=1,402,760 円（仮）（地質学会負担金は 20 万円）
    - 支出=1,204,519 円
    - 収支=198,241 円（仮）
 ただし、収入についてはゆめ基金が確定していないため仮決定額。年度末に確定の予定。今年度も余剰金が見込まれるので、各学会への返金等を検討する。
  - 2016 年度第 17 回南紀について、開催にむけて準備中
  - 2017 年度第 18 回開催地の募集については、応募要領の公開を本年 12 月から、募集期間を来年 1 月から 2 月にかけて行う予定。

### 8. 地学オリンピック支援委員会（平田）

- 1) ブラジル大会の報告書 (<http://jeso.jp/ieso/info.html>) ウェブページ参照のこと.
  - 2) 第8回日本地学オリンピック予選(12/20)に約2,100名が応募.
  - 3) 10月から日本大会の運営委員会を開催(月1回)し,協賛団体・個人の方へ運営委員会ニュースを配信.
  - 4) 地学オリンピックのキャラクターの名称が「地球ニンジャ」に決定.
9. 125周年記念事業実行委員会(渡部)
- ・全体工程表の精緻化と,個別事業(記念出版物,レビュー誌,フォトコン出版物,記念会員証,記念式典など)の進捗状況を報告.
  - ・これらの中で,記念事業から学会事業として実施すべきものがあるかどうかの確認も実施.
  - ・会員証の作成および使い道を検討する中で,25年または30年会員の新設の可能性も検討する.

以上

2015年12月5日  
一般社団法人日本地質学会執行理事会  
会 長(代表理事) 井龍康文  
署名人 執行理事 斎藤 眞